2026 年度 アニメ業界 就職意識調査レポート

公開日：2026 年 11 月 25 日
作成者：株式会社ワクワーク

調査概要とサマリー

- **調査主体**：株式会社ワクワーク
- **調査対象**：アニメ業界への就職を希望する学生（中学生・高校生～大学院生、専門学生、海外在住者を含む）
- **有効回答数**：302 件
- **調査方法**：Web アンケート（Google フォーム）
- **調査期間**：2026 年 9 月 11 日～2026 年 9 月 30 日
- 構成比は小数第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。複数回答の設問は回答者数（302 人）を分母としています。

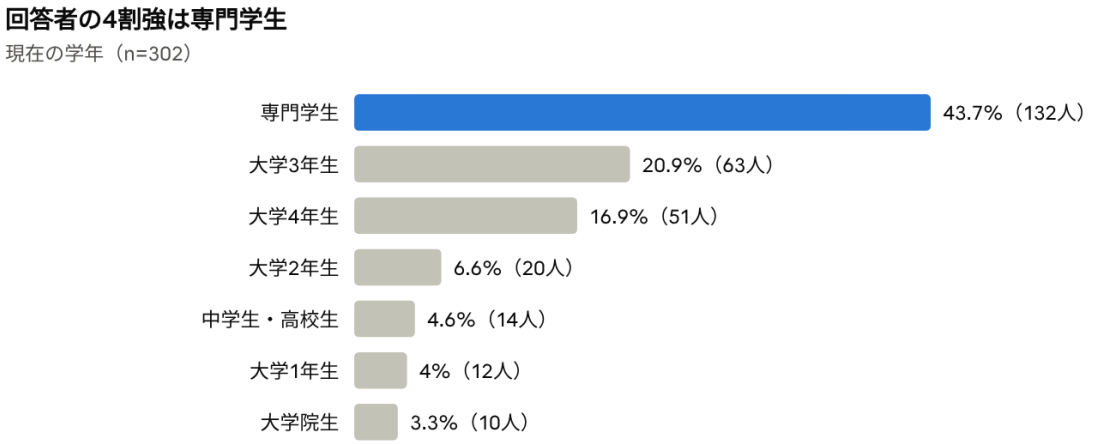
主なポイント

1. **志望度は非常に高い**：「アニメ業界で働くことへの興味」を 5 段階で最高の「5」とした回答者は 79.1%。希望職種は「作画・動画・仕上げ」が 62.3%で最多。
2. **「やりがい」と「待遇」のギャップ**：やりがい（肯定 94.7%）・将来性（同 70.5%）は高評価だが、給与水準（否定 61.9%）・労働環境（同 58.2%）は厳しい評価。
3. **会社選びは「労働環境」と「教育体制」**：8 項目のうち 1～3 位に挙げた割合は労働環境 83.4%、教育体制 78.5%が上位。最大の不安も「労働環境」24.5%、「待遇」24.2%、「スキル不足」22.8%と拮抗。
4. **家族の反応は概ね好意的**：ポジティブ 47.0%、ネガティブ 16.2%。専門学生はネガティブが 11.4%と低く、大学生（1～4 年）は 19.2%とやや高い。
5. **首都圏外の学生の約 9 割が転居を想定**：首都圏以外の回答者の 76.3%が「引っ越しが必要」と回答。首都圏在住者でも 47.3%が「通勤可能だが引っ越す予定」。
6. **情報源は企業の公式サイトと SNS**：「非常によく使用する」は公式サイト 67.2%、SNS62.6%で、就職情報サイト（32.8%）の約 2 倍。

1. 回答者プロフィール

回答者 302 人の中心は専門学生（43.7%）と就職活動期の大学 3・4 年生（計 37.7%）で、居住地は首都圏が 55.3%を占めます。

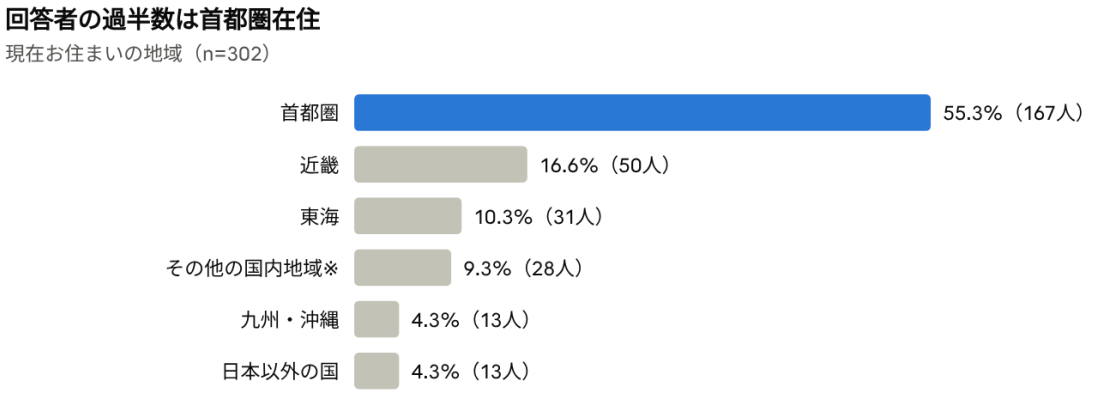
学年



ワクワーク就職意識調査（n=302）

専門学生と大学生（1〜4 年）で全体の 92.1%を占めます。中学生・高校生（4.6%）や大学 1・2 年生（10.6%）など、本格的な就職活動の前段階から業界を志望する層も一定数います。

居住地域

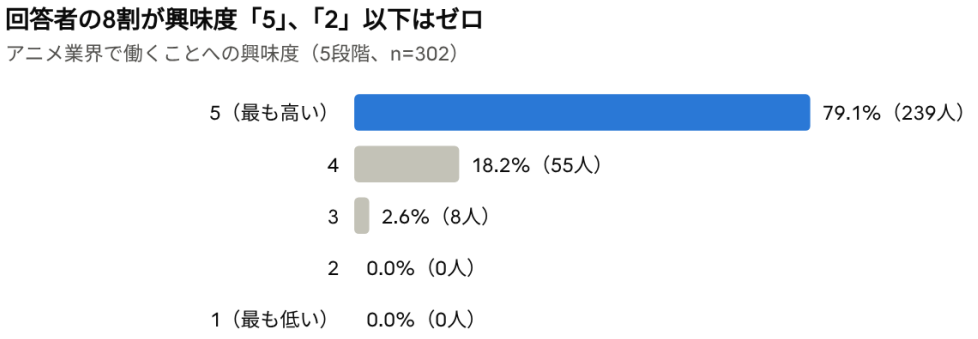


ワクワーク就職意識調査（n=302）※北関東 7 人・北陸 7 人・中国 6 人・東北 4 人・北海道 3 人・四国 1 人の合計

首都圏に次いで近畿（16.6%）、東海（10.3%）が多く、首都圏以外の国内在住者は計 40.4%です。海外在住者も 13 人（4.3%）おり、海外からの関心も確認できます。

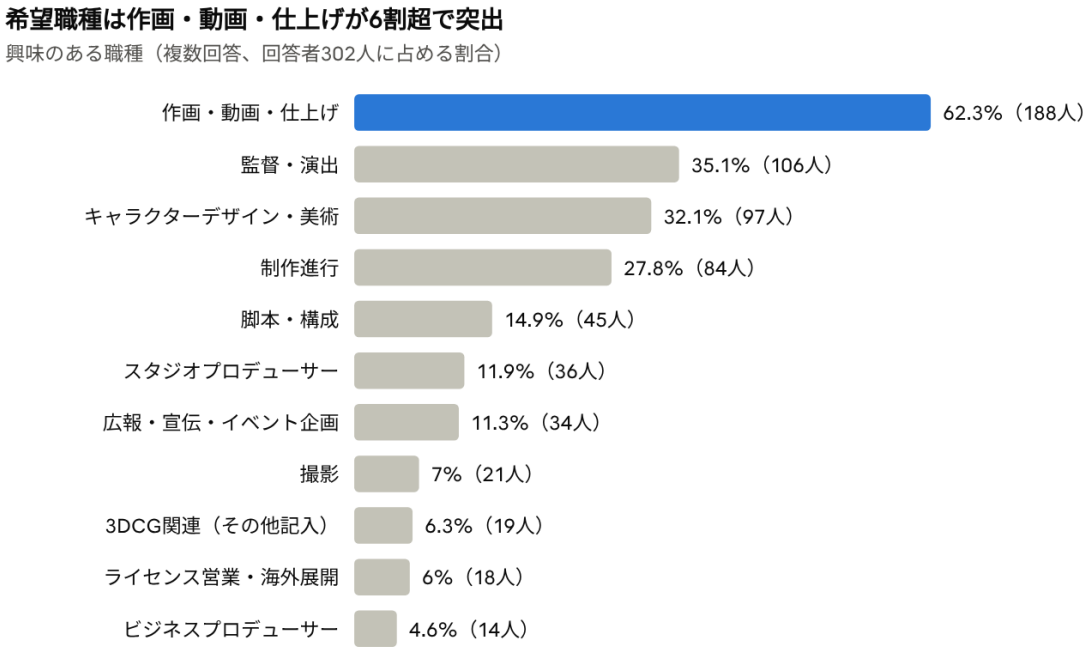
業界への興味度

「アニメ業界で働くことに対してどの程度興味があるか」（5 段階）では、「5」が 79.1%（239 人）、「4」が 18.2%（55 人）で、「3」は 2.6%（8 人）、「2」以下はゼロでした。回答者のほぼ全員が強い志望意欲を持っています。



ワクワーク就職意識調査（n=302）

興味のある職種



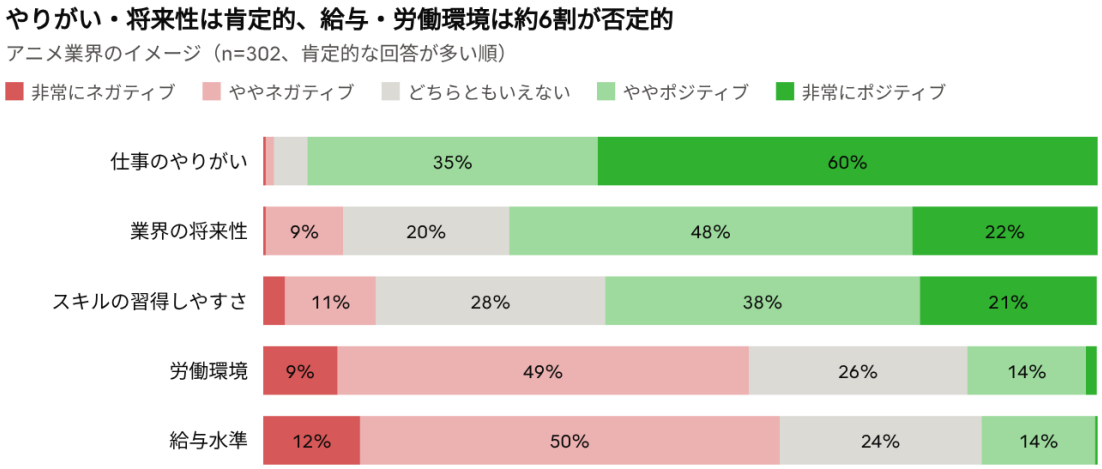
ワクワーク就職意識調査（n=302）・3DCG 関連は「その他」自由記入を集約

1 人あたり平均 2.2 職種を選択しています。属性別では、専門学生は作画系（66.7%）、大学生（1〜4 年）は制作進行（41.1%。専門学生は 14.4%）や監督・演出（39.7%）への関心が相対的

に高い傾向です。スタジオプロデューサー（17.8%）や広報・宣伝（17.1%）など制作管理・ビジネス系の職種も、大学生で多く選ばれています。

2. アニメ業界のイメージ

学生はアニメ業界を「やりがいがあり将来性もあるが、待遇と労働環境に課題がある業界」と捉えています。5 項目のうち、否定的な回答が過半数を占めたのは給与水準（61.9%）と労働環境（58.2%）の 2 項目です。



ワクワーク就職意識調査（n=302）・6%未満の値はラベル省略

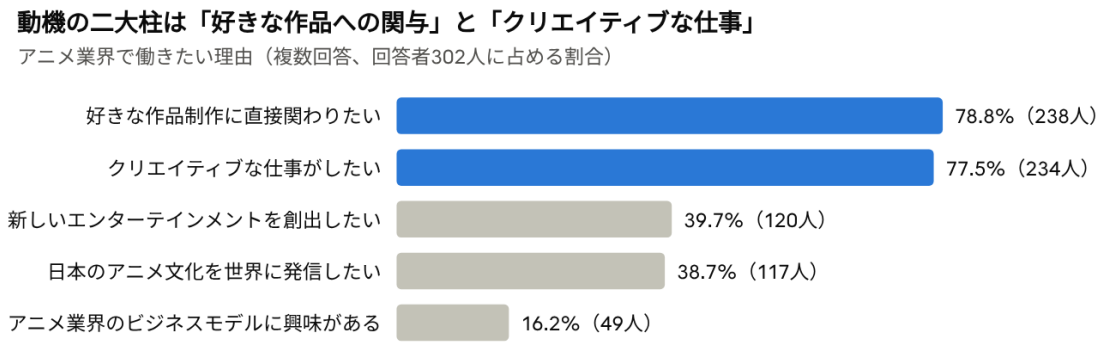
- **仕事のやりがい**：肯定的な回答が 94.7%、うち「非常にポジティブ」が 59.9%。否定的な回答はわずか 1.3%です。
- **業界の将来性**：肯定的な回答が 70.5%で、産業としての成長には期待が寄せられています。
- **スキルの習得しやすさ**：肯定的が 58.9%ですが、「どちらともいえない」が 27.5%と多く、育成の実態が学生から見えにくい様子がうかがえます。
- **給与水準・労働環境**：いずれも「ややネガティブ」が約 5 割で、「非常にポジティブ」は 1%前後にとどまります。

5 段階を点数化（非常にネガティブ＝1〜非常にポジティブ＝5）すると、労働環境は専門学生 2.66 に対して大学 3・4 年生は 2.26 と低く、就職活動が本格化する層ほど厳しく見ています。また、家族の反応が「ネガティブ」だった回答者は給与水準のイメージが 2.10 と、「ポジティブ」だった回答者（2.50）より低くなっています。

3. 就職の動機、会社選びの指標、就職への不安材料

学生は「作品づくりへの情熱」を動機に業界を志望しつつ、会社選びでは「労働環境」と「教育体制」を最も重視しています。就職への不安もこの裏返しで、労働環境・待遇・スキル不足がいずれも約二割強で並んでいます。

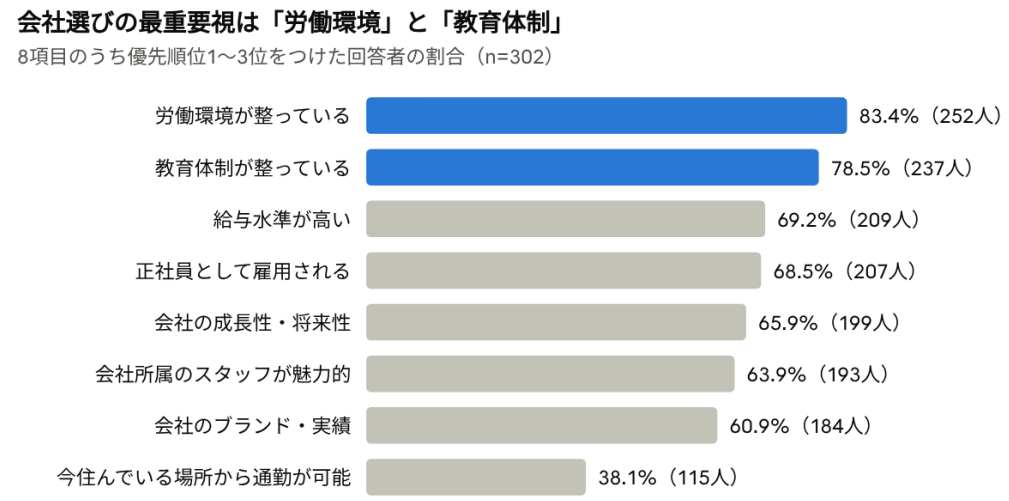
アニメ業界で働きたい理由



ワクワーク就職意識調査（n=302）・「その他」自由記入は除外

「好きな作品制作に直接関わりたい」（78.8%）と「クリエイティブな仕事がしたい」（77.5%）が大きく上回ります。「日本のアニメ文化を世界に発信したい」も約 4 割あり、海外展開への関心も一定数見られます。

会社選びで重視するポイント



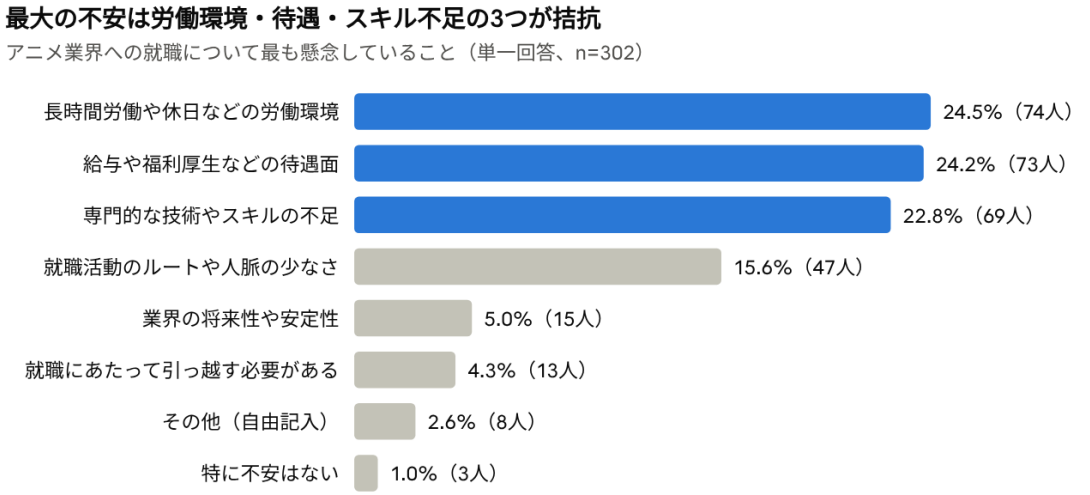
ワクワーク就職意識調査（n=302）・同順位の重複あり

本設問は 8 項目に 1〜8 位をつける形式ですが、同じ順位を複数項目につけた回答も含まれるため、各項目の「重要度」として集計しています。

項目	平均順位（小さいほど重視）	1 位をつけた人数
労働環境が整っている	2.31	105 人
教育体制が整っている	2.51	98 人
給与水準が高い	2.94	60 人
正社員として雇用される	3.05	73 人
会社の成長性・将来性	3.07	75 人
会社所属のスタッフが魅力的	3.16	73 人
会社のブランド・実績	3.44	50 人
今住んでいる場所から通勤が可能	4.68	41 人

「会社のブランド・実績」は下位で、知名度よりも「入社後に働き続けられるか」「育ててもらえるか」が問われています。「通勤が可能」は最下位ですが、首都圏在住者では平均順位 4.22（1〜3 位の割合 45.5%）、首都圏以外では 5.25（同 28.9%）と差があります。

就職にあたって最も懸念していること

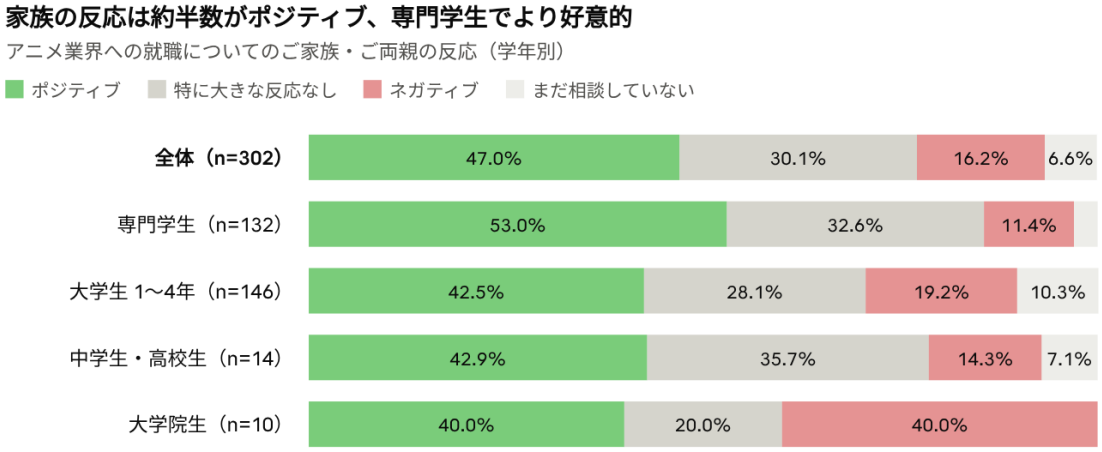


ワクワーク就職意識調査（n=302）

属性別に見ると、専門学生は「スキルの不足」（27.3%）を、大学 3・4 年生は「就職活動のルートや人脈の少なさ」（21.1%。専門学生は 9.8%）をより多く挙げています。専門教育を受けない大学生にとって、業界への入口そのものが見えにくいことが課題といえます。

4. アニメ業界への就職に対するご家族・ご両親の反応

ご家族の反応は「ポジティブ」が 47.0%で最も多く、「ネガティブ」は 16.2%にとどまりました。ただし学年による差があり、大学生は専門学生よりネガティブな反応を受けやすい傾向が見られます。



ワクワーク就職意識調査（n=302）・「まだ相談していない」は「いずれ相談予定」と「相談予定なし」の合計・中高生と大学院生は母数が少ないため参考値

年齢（学年）による差

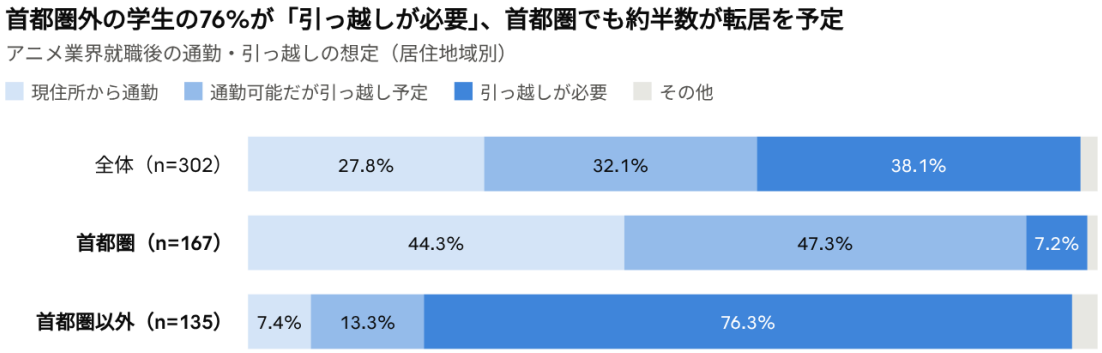
- **専門学生**はポジティブ 53.0%、ネガティブ 11.4%で、最も好意的です。専門学校への進学時点で、業界を目指すことについて家族の理解を得ているケースが多いと考えられます。
- 大学生（1〜4 年）はネガティブが 19.2%と専門学生の約 1.7 倍で、「まだ相談していない」も 10.3%あります。一般企業への就職も選択肢にある中で、家族の理解を得ることが課題になっています。
- 大学院生はネガティブ 40.0%と高いものの、回答者が 10 人のため参考値です。

地域による差

首都圏（ポジティブ 46.1%・ネガティブ 16.8%）と首都圏以外のエリア（同 47.5%・16.4%）の間に大きな差はありませんでした。地域を細かく見ると、近畿（n=50）はポジティブ 60.0%・ネガティブ 8.0%と好意的な一方、中国・四国・九州・沖縄（計 n=20）ではネガティブが 45.0%と高くなっています。後者は母数が少ない点に留意が必要ですが、制作拠点から遠い地域ほど、子の上京を伴う就職への懸念が強い可能性があります。

5. アニメ業界就職後の通勤・引っ越し

回答者全体の 70.2%が就職にあわせて引っ越しを想定しています。首都圏以外では 76.3%が「通勤可能な範囲に就職先がなく引っ越しが必要」と回答し、首都圏在住者でも 47.3%が「通勤は可能だが引っ越す予定」です。



ワクワーク就職意識調査（n=302）・首都圏＝東京・神奈川・埼玉・千葉、首都圏以外には海外在住者 13 人を含む

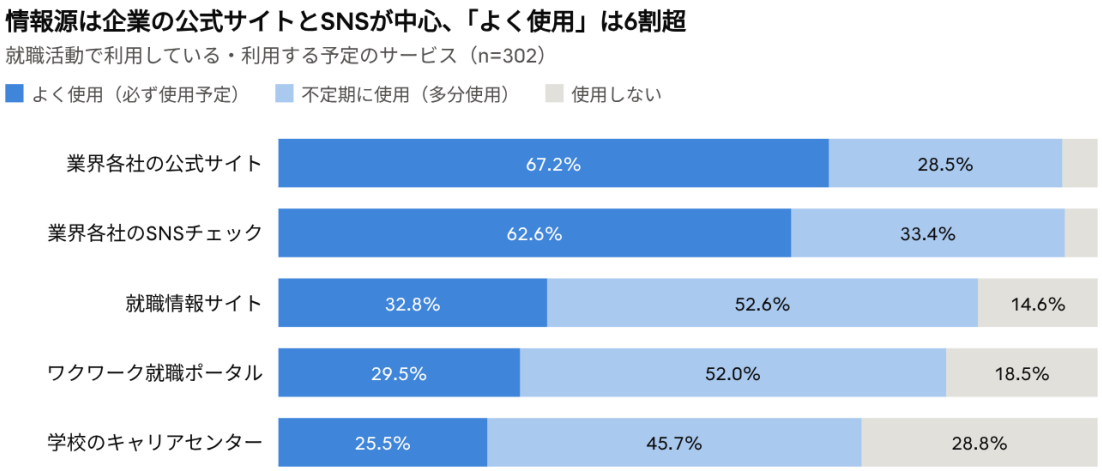
回答	首都圏（n=167）	首都圏以外（n=135）
実家から通勤を想定	35.3%（59 人）	3.0%（4 人）
一人暮らしの住まいから通勤を想定	7.8%（13 人）	4.4%（6 人）
実家から通勤可能だが引っ越しを想定	22.2%（37 人）	5.9%（8 人）
一人暮らしの住まいから通勤可能だが引っ越しを想定	25.1%（42 人）	7.4%（10 人）
実家から通勤できず引っ越しが必要	4.2%（7 人）	54.1%（73 人）
一人暮らしの住まいから通勤できず引っ越しが必要	3.0%（5 人）	22.2%（30 人）
その他（自由記入）	2.4%（4 人）	3.0%（4 人）

- **首都圏以外：実家から初めての上京が中心**。首都圏以外の回答者の 54.1%は「実家暮らしで、引っ越しが必要」です。初任給から家賃・生活費をまかなうことになり、給与水準への不安と直結します。「最も懸念していること」で「引っ越す必要がある」を選んだ割合も、首都圏以外（6.7%）は首都圏（2.4%）の約 3 倍です。
- **首都圏：通勤可能でも半数が転居を想定**。実家からの独立（22.2%）に加え、すでに一人暮らしの学生でも転居を想定する層が 25.1%います。制作会社が集積するエリアへの「職住近接」ニーズがうかがえます。

- 海外在住者（13 人）は 46.2%が引っ越しが必要と回答し、「海外からの在宅勤務を希望」という自由記入もありました。

6. 就職活動で利用している・利用する予定のサービス

学生が最も頼りにする情報源は企業自身の発信です。「よく使用している（必ず使用する予定）」は業界各社の公式サイトが 67.2%、SNS チェックが 62.6%で、いずれも一般的な就職情報サイト（32.8%）の約 2 倍です。



ワクワーク就職意識調査（n=302）・就職情報サイト＝マイナビ、リクナビなど・キャリアセンター＝大学・専門学校

- **公式サイトと SNS は「使用しない」が 4%台**で、ほぼ全員が参照しています。採用情報や社内の様子を自社チャネルで発信することが、学生との接点づくりの基本といえます。
- **就職情報サイト**は利用率自体は 85.4%と高いものの、「不定期」が中心です。自由記入でも「アニメ会社は大手就職サイトに掲載されていないことが多く、募集を見落とした」という声がありました。
- **ワクワーク就職ポータル**の利用率は 81.5%（よく使用 29.5%＋不定期 52.0%）で、就職情報サイトに近い水準です。
- **キャリアセンター**は「使用しない」が 28.8%で最も高く、学校種別で差が大きい項目です。専門学生は「よく使用」が 38%に対し、大学 3・4 年生は 21%にとどまり「使用しない」が 38%です。大学のキャリア支援ではアニメ業界の情報が得にくいことがうかがえます。

※本調査はワクワークが実施したものであり、回答者には同社サービスの利用者が多く含まれると考えられます。ワクワーク就職ポータルの利用率は、その点を踏まえてご参照ください。